



精神保健福祉家族会

仙台みどり会会報

第6号 (通算74号) 令和2年10月7日発行 〒981-3204 仙台市泉区寺岡1-20-16 黒川方 仙台みどり会事務局
電話・FAX 022-377-1966 家族会携帯 080-2812-4835 [9時~17時] ホームページ <https://sen-midori.jimdofree.com/>



向かう先は変わらない

～家族が疲れすぎないために～

精神保健福祉家族会 仙台みどり会

会長 黒川 洋

コロナや天候不順で不穏な日々が続いています。皆さまはいかがお過ごしでしょうか。さて、コロナの影響により世の中のすべての活動が大きな影響を受けており、仙台みどり会についても同様です。今年度、4月、5月は中止せざるを得ない時期があり、今後もどのようになっていくか、誰にも見通しはつきません。

コロナの一日も早い終息を願いながら、どんな状況にあっても私たちは以下の活動方針をもって臨むことを、改めてお伝えします。

「精神障がい者を抱えているという同じ悩みを共有している家族（ピア＝家族）であることを活かして、家族同士による学びあい、分かち合い、そして精神保健福祉の普及・啓発等の活動を行います。」

今後の主な行事についてご案内いたします。

□仙台みどり会懇談会

今年度6月以降は、ご案内のとおり時間短縮（10時～12時）と除菌対策を行って毎月開催しています。お昼の会、個別面談は当面、見送っていますが、個別にご相談の必要な場合は電話でお聞きしています。どうぞご連絡ください。

□家族研修会

今年度前半は中止となりましたが、今後はこの会報でご案内のとおり、10月23日に成年後見制度について、来年2月には精神科医師による研修を予定しています。

□仙台みどり会会報の発行

例年どおり、今年度も3回発行します。次回会報は来年1月末の予定。

外部の研修は中止が多いようですが、開催の場合は紙面にてご案内します。



家族が疲れすぎないために

私たち家族は、つらい思いや体験を自分たちだけで抱え込み、孤立しがちです。心身が

目次

1～4ページ	向かう先は変わらない／懇談会の風景から	会長 黒川 洋
4ページ	役員、会員等の皆さまより	伊藤 竹海、M・G(女性)、S・H(男性)、
～11ページ	磯谷 裕治、K・O(女性)、佐藤みつえ、後藤 くらゐ	
11～12ページ	研修会情報・「仙台みどり会懇談会」開催日程	

疲弊して、複数の医院へ掛け持ちで通っているという話も、懇談会ではよく聴いてきました。

精神疾患は慢性病です。その経過は長く、同じ屋根の下で生活していると本人の悪い症状や不健康な面ばかりが目立つものです。そして、本人が病気のかたまりに見えてしまうということは、ほとんどすべての家族が体験しています。

本人には、健康な部分やいいところがたくさんあるはずですが、しかし、いっしょに生活していると距離が近いために、見えにくくなっていることが多いと言われています。健康な部分に働きかけて、そこを大きく膨らませ、病気や障害の部分を押し出してあげることが必要です。

私たち家族が過干渉になって、心配する気

持ちや批判的な気持ちが大きいと、再発のリスクが高くなるという「感情表出」に関するデータもあります。

上手に距離をとることや、気持ちに余裕を持って生活することが大切だといわれています。

また、家族としては病気とその対処法を正しく知っておくこと、できるところは支援者をお願いをし、本人はいろいろなサービスや人の力を借りながら、何とかやっていこうと、距離をとるくらいがいいと言われています。

家族以外に、自分の気持ちを話せる場、話せる人を持つことも大切だと思います。

また、ご自身の心身をいたわってあげることが忘れてはいけないと思います。

仙台みどり会懇談会の風景から *家族がいっしょに考えるコーナー*

懇談会では、家族同士がさなざまな悩みや思いを出し合っていていっしょに考えています。下記はその一場面です。内容は、個人情報を守るため、脚色を加えています。

今回の事例：「一人暮らしをしたい」

Aさん（女性）：主人と私、統合失調症の息子（次男、44歳）の3人暮らしです。こんな病気にならなかつたら、別世帯の長男と同じようにふつうに結婚して仕事しているでしょうが...



作業所は好きなようで、通院の時以外は週5回、ほとんど欠かさず通っています。B型事業所です。その友人がアパート暮らしをしているらしく、「お前にもできるよ。」と言われたようで、ご飯を食べながら得々と言うんです。「アパートで暮らしたいなア」って。黙って聞いていたけど、息子にはまず無理！自分の服の洗濯、食事も作れないのに、よく言えたものだと思います。

部屋は散らかし放題で、たまに掃除をしておくで「なんで黙って変えた！」とどなる。暴力は振るわないけれど、ありがとうの一言もなく、すぐ元に戻ってしまう。パソコンで友人とやり取りしたり、就労の情報を集めて「こんな仕事がいい」と話すんですが、口ばかりです。

夫は息子のことでは「お前に任せている」と無頓着です。私も先は長くないし、腰と長年の持病の通院2カ所はきついです。息子には、できれば自分で生活させたいが、この先どうすればいいのでしょうか。

司 会：Aさんから、日々ご苦労を重ねて、息子さんのお世話をしている様子がうかがえました。息子さんは体調を崩さず作業所へ通い、話し合う友人もいらっしやるようです。また、パソコンで就労などほしい情報を調べたりできる方で、お母さんとコミュニケーションは取れていらっしやるようです。

現在、親元を離れてアパートやグループホームで生活する方が、たしかに多くなりました。今のお話に関連して、皆さまから何かございませんか。

Bさん（女性）：うちでは、娘が一人暮らしをしたいと、昨年からアパートタイプのグループホームで生活しています。実は、通っているB型事業所から相談支援事業所を教えられて、その職員さんとグループホームを2か所見学しました。そのうち、1つが気に入って入居することを決めたのですが、本人の障害年金2級だけでは足りず、うちも負担がむずかしく困っていることを相談支援事業所へ伝えました。そうしたら娘本人が世帯を分離して生活保護のサービスを申請する方法があることを教えていただきました。そのように手続きを進め、保護費の支給が決定しました。年金だけでは不足する分を、保護費がカバーする仕組みだそうです。

本人はグループホームでの生活に満足しているようですが、近い将来はアパートで暮らしたいと言っています。家にいても今のところ問題はないんですが、本人は自立したいそうです。私も高齢になって、今後を考えると自立したほうがいいと思ったんです。

司 会：娘さんは、グループホーム利用を次へのステップと考えていらっしやるのですね。当事者が娘さんの場合、家においておきたい親御さんも多いようですが、Bさんは娘さんの自立を応援されている様子が、お話から聞き取れました。ありがとうございます。はい、Cさん、どうぞ。

Cさん（男性）：うちは息子が公営住宅で暮らし始めて3年目です。できているのか、だめになるのか、私たち夫婦は80を超えて高齢だから心配するしかないんですが、訪問看護の人とか、ヘルパーの人とか来てくれて、何とかやっているようです。

食事はスーパーで買うことが多いようだけど、簡単な料理はヘルパーさんに教わったり、掃除も手伝ってもらっているみたいです。入居に当たっては、息子が食事会とかのイベントで出かけていた相談支援事業所の方が、いっしょに考えてくれたようです。そして、本人の希望した公営住宅が運よく当選し、入居が決まったのです。生活保護費も支給されています。ハジだと思わないで受けて独立するのがいいと思います。私たち夫婦は、いつまでも本人の世話はできないのだから。

1回だけ、息子の引っ越し前に相談支援事業所や役所、病院の人、サービスの人などが集まる会議に、いっしょに出席しました。皆、息子のことを真剣に考えてくれる人たちだと感じました。

ありがたいです。

息子は月1回くらい帰ってきて、好きな洋楽の話をするんですよ。私たちにはわからないけれど。帰りには、食べ物を土産に持たせます。



司 会：Cさんの引っ越し前の会議では、息子さん生活を応援するそれぞれの担当者が顔を合わせて役割を確認したのだと思います。息子さんは、食事作りは得意ではないようですが、ヘルパーさんを活用しているようです。訪問看護も利用しているのですね。

Dさん（女性）：いいですね。うちの息子は42歳。Aさん、Bさんと同じでB型事業所に通っていて、とても真面目です（笑）。以前から懇談会では、一人暮らしの話は聞いていたし、親はいつまでも元気ではいられないので、自立に向けてグループホームとか考えてほし

いのですが、本人は頑としていやだと言ひ張ります。今のところは、これまで懇談会で学んだように、余計な口出しをしたり心配しすぎたりしないようにして様子を見ています。これからも接し方を勉強したいですね。



Aさんとは同じ立場ですよ。いっしょに勉強しましょう。

司 会：ありがとうございました。Aさんの、「できれば自分で生活させたい」

という思いに対して、3人の皆さまのそれぞれの体験を聞かせていただきました。

Bさんの娘さんとCさんの息子さんは、どちらも相談支援事業所につながって、住む所や必要なサービスを一緒に考えてもらったようですね。

Dさんは、息子さんの様子を見てるところとのことですが、何かきっかけがあると展開が変わってくるかもしれませんね。

また、親元を離れて暮らしている皆さんの中には、Cさんの息子さんのように食事作りや掃除があまり得意でなくホームヘルプサービスを利用したり、訪問看護を受けている方、また、金銭管理サービスを利用している方、など、必要なサービスを組み合わせて利用している方が数多くいらっしゃいます。

ここまでお聞きして、Aさんは息子さんの一人暮らしのイメージはいかがでしょうか。

Aさん：反対はしませんが……。できるのでしょうかね、不安です。もう少し、考えたいです。

Bさん：うちも不安はあったけど、相談支援事業所へ相談できたのがいいと思っています。本人を中心に考えてくれますよ。今でも、月1回くらいずつ、娘は定期相談をしていっしょに考えてもらっているようです。

今思ったんですけど、Aさん、息子さんにお茶碗の片付けなど声掛けしてみるのはどうでしょうね。



Cさん：うちの息子のところへは、ヘルパーさんや訪問看護だけでなく、

相談支援事業所や役所の人も様子を見に行ってくれているみたいだね。

司 会：私たちの当事者や家族を支える地域ケアは、日本ではまだ整っているとは言えませんが、必要なサービスを利用しながら、親元を離れて暮らす方がとても増えてきたと思います。私たち家族としては、これまでも学習したように気持ちのスイッチの切り替えが大切だと思います。たとえば障害の部分、病気の部分で本人を見るのではなく、できること、良いことなど健康な部分で本人を見て応援することで、本人も、家族自身も変わっていくかもしれません。

Dさん：それは大切！私はなるべく息子のいいところを見つけて、ほめるようにしています。いづれ、息子より私がおさらばするのだから。私は私の人生を楽しまないと（笑）。

司 会：たぶん、いいヒントをいただけたと思います（笑）。ありがとうございました。

（黒川）



「近況」

仙台みどり会会計 伊藤 竹海

第3号（令和元年10月30日発行）で「一時的な現実逃避」というタイトルで書かせていただき、文末は「他にもしている事がありますが、また何かの機会に・・・」としていました。続きは？という声がありましたので、

最初にそのあたりを。

「読んだよ」などと声をかけてもらうことがあり、嬉しいことです。

その他にしていたことは、列車旅やスーパー

銭湯へ行くという「一時的な現実逃避」もしていました。

列車旅はただひたすら普通列車に乗っているだけ。

生活や仕事のことをあまり考えること無く、ぼーっと出来ます。

帰る都合などから、ある程度目的地はあるのですが、そこへ行っても大したことをするでもなく帰路へつきます。

スーパー銭湯は、入浴はもちろんなのですが、ゆっくり入浴し昼寝をして、また入浴して。半日くらい居ます。こちらあまり考えることなく過ごせる空間です。

さて「していました」という過去形になっているのを感じていただきましたでしょうか？

残念ながら、どちらもコロナで自主的に自粛中。(自主的に自粛、意味が変なのはあえてです) ストレス解消が困難になっています。

それだけが原因ではないのですが、何事もなかなかやる気がおきない日々です。決断・実

行までに本当に時間がかかります。思考抑制状態です

前号でも書きましたが、私の不安としては、私自身が感染するという不安よりも、私が感染し、仕事先などで感染させてしまい、多くの方々に迷惑をかけてしまうことなのです。私だけでは無く、多くの当事者も日常生活や仕事などで大きな精神的影響を受けているようです。対応やリスクがインフルエンザレベルになるまでは続くのでしょうか。

そんな中、とあるところから当事者としての話などをしてほしいというご依頼が。だいぶ久しぶりです。綺麗事や思ってもいないことなどを話す気は無い！なんていう頑固な信念をもつ、こんな私にありがたいものです。

この会報が発行される頃には、ご依頼いただいた講話の1回目が終わっています。

さて、問題なく出来たのでしょうか？



母について

仙台みどり会会員 M・G (女性)

母が18年前に統合失調を発症し、私は当時11歳でしたが、以来約10年間生活を共にしました。幸い、母は現在に至るまで寛解状態で服薬を続けて来ました。

私は6年前に大学を卒業した後、東京への就職を期に、家族とは別居し、以来、主にお盆や正月休みに実家に帰り、短くて1,2日という時もあれば、長くて4,5日程度過ごすという感じで家族と接しています。

私にとって、帰省は何となく気持ちが憂鬱になり、それだけで悲観的な気持ちのスイッチが入り「母のこれからは誰がどうするのだろう。」と、暗い思考のループに入ってしまう

ます。だから、物理的に距離が離れていた方が情緒的に安定して過ごせると感じてきました。

よくある言葉掛けですが「実家に帰ってゆっくりしてくださいね。」が私にはできず、そんな境遇であることが今も少し悲しいと思うこともあります。

何年か前にその思考の癖に気付いてからは、帰省中も積極的に外出して、あまり家のことを考えなくていいように、自分なりの環境調整？を図るようになりました。

すると何となく母にも余裕をもって「限られた日数だけなら優しく接しよう。」と思うよう

になりました。

今、コロナ禍で遠出ができないことは、そんなリフレッシュに制限がかかり、ちょっとストレスです。

私自身も不安が強まると身体に影響が出やすい体質なので、そこに至るまでは、自分なりに「このまま、暗く悲しいことばかり考える人生にしたくない。」と思い、はあとぽーと仙台やクリニックでカウンセリングを受けながら「母のことを自分ごととして受け止めすぎない。罪悪感を抱える必要はない。両親のことは彼らがそれぞれ問題を考えていくのだから、自分は自分の人生を歩めばいい。」と答えを出しました。とはいえ時折、「私だけが自由に暮らしていて父も母もかわいそう。私は冷たいかもしれない。」と思い悩みながら暮らしている毎日です。

この悩みや苦しきから解放されたくて、問題の解決ばかり焦って模索していましたが、ほとんどはまだ起こっていない「未来」のこと。そこに自分の不安が加わり、あたかも目の前で起きていることのように更に不安な気持ちを駆り立てているのだ。と気づいてからは、不安な気持ちが起こっても、「今は目の前のこと（仕事）を考えよう。」と思い直すようにがんばっています。

何となく子供の頃から「母のことはばれてはいけない。」「本当は辛いけど、明るくふるまわないといけない。」と思ってきたからか、幼少期は何でも親の顔色を伺って不自由に暮らしていた。と思います。

母は毎日予定を確認して、新聞やカレンダーに書き込むので、こちらはゆっくり新聞を見ることもできません。また、家事など段取

りを考えて行動するようなことが苦手なので、幼少期から散らかり放題の部屋で育ってきましたし、献立もほとんどレトルトや総菜。「月曜日はレトルカレー、火曜日はコンビニのおでん。」のように毎日きちっと決められたルーティンに合わせて同居してきました。ヒステリックで当時は父とも別居し、家のことはままならない反面、旅行や芸術にお金をかけることは惜しまない人だったので、こちらの心配もよそに、いろいろな所に連れて行ってはもらいましたが、母も出かけている時だけは優しく明るかったので、人との関わりの中で問題を解決することは苦手で、きっと閉塞感を感じながら毎日を生きていたのだろうな。と思います。

そのような家庭の中でも父はお金も工面しながら進学させてくれて、感謝する気持ちはありましたが、成長してくるに従い「将来は自分のお金で好きな時に好きな料理を食べ、好きな洋服を着て、部屋もきちんと掃除をして、自立して生きていきたい。」と思うようになりました。反面、「辛いな。お父さんに頼りたい。」と思うこともありましたが、今は一人暮らしに慣れて、母のルーティンから離れて自分の好きなように暮らせているので正直ほっとしています。

今年に入り、みどり会でいろいろな家族の方の体験談をお聞きし、一人じゃないのだ。と自分を責めそうになった時にふと立ち止まれるようになりました。親には会えた時に親孝行し、これからも一生懸命自分を可愛がろうと思います。



後藤さんに感謝

S・H（男性）

私は統合失調症を発症して18年目になる40代の男性です。一度寛解しましたが、再発し、転院を繰り返

していました。病院によって、「統合失調症」と診断されたり、「うつ病」と言われたりしました。

近医に5,6年程通院していましたが、回復が思わしくなく、いつも気分がふさぎこみ、外出も出来ない状態が続いていました。主治医の先生の診察は1~3分程度で、ほとんど話も聴いてもらえず、何を訴えても安心できる言葉はありませんでした。

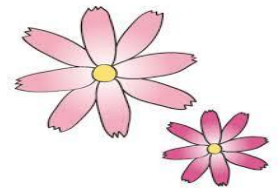
このまま通院を続けていて回復するのかと悩み、しかしどこの病院に行ったらいいのかもわからず、とても迷っていました。

そんな折に、母親がお世話になっている「みどり会」の役員の方(後藤さん)に勧められ、新しい病院を紹介していただき、受診することになりました。

しかし、受診に至るまで様々な困難がありましたが、後藤さんのお力添えがあり、助言、アドバイスをいただき、何とか受診することが出来ました。

初診で、主治医となる先生に、今までにないくらい詳しく話を聴いていただき、的確な診断をしてもらいました。先生の説明がとても詳しく、わかりやすく、やっと自分自身の病状が腑に落ち、納得できました。

今回は本当に助かりました。後藤さんには感謝申し上げます。ありがとうございました。



「ロゴセラピーについて」~その2~

仙台みどり会世話役 磯谷 裕治

前回の文章で、「自分が生きている意味が見えなくなった」状態から、どうやって抜け出したかを語りました。世間の価値観に縛られていた自分から自由になった話です。その後、私は自問しました。「では、私の本当の願いは何だろうか? 世間の誰ひとりも認めず、皆から止めると反対されたとしても、やりたいことはなにであろうか?」

それは、 فرانクルの「自由意志」によって「存在」の「責任」を果たすという考え方を辿ることになります。私は妻を狂気から救い、共に生きたいのだと。

そして25年が過ぎ、思わしい回復が訪れないとき、再び、迷いが生まれます。「一体、望みはかなわないのだろうか? ずっと全力で探し続けてきたけれど、治す術はないのだろうか? もはや、人生も晩年だ。もし、直らないのであれば、この苦勞に意味はないのではないか?」

再び、手に取った、フランクルの本に次のコトバを見つけました。

[その後しばらくして、自分がまもなく死な

なければならないことがはっきりしてきました。でもこうした危機的な状況でも、わたしの心配の種は、収容所の多くの仲間たちとはちがうものでした。彼らの疑問は、「この収容所を生きて出られるだろうか? もしもそうでなかったら、いまの苦しみはまったく意味がなくなってしまふ」というものでした。それに対してわたしを苦しめていた問いはこうです。「わたしたちのこの苦しみと死のすべてには意味があるのだろうか? そうでなかったら、生き残れたとしても、結局何の意味もなくなってしまふ。その意味がそのような偶然に依存しているような人生ならば、命が助かっても助からなくても、そもそも最初から生きるには値しないのではないだろうか?」 「ロゴセラピーのエッセンス~18の基本概念」新教育出版社 2016.10.11. . . P45 「7章 実存の本質」

そうなのだ。努力すれば報われるとは限らないのが人生だ。そもそも、止むに止まれずにやっていること。

心の望みのままに、従うのだ。

そう、諦めがついたのです。





みどり会卒業を控えて

仙台みどり会 K・O（女性）

2年前の正月、午後9時ごろ友人との電話中に、突然、呼吸困難に陥り苦しくなった。直ぐに救急車要請酸素吸入を。後はわかりません。

119番が5分遅かったら、呼吸停止だったそうです。

1ヶ月間入院医療で私自身、死の淵に近付いたのを覚えています。

体が回復すると共に、病の息子の将来を考え、とても不安でした。

そのうちに息子が、体調を崩してどうにもならず、〇〇さんに相談しました。

がっかりしました

悩んでいる家族が最後に頼るのは、同じ悩み共有している者同士、何のための家族会でしょうか？

みどり会の役員も、それぞれ高齢になりました。お手伝いの協力者を募っていましたが大変だと伺っております。手始めに会計監査を毎年二人交代で行いお金の流れがよくわかります。自分から進んで役員参加、お手伝いいただけるよう願っております。

重ねて申し上げます！家族の悩み苦しむ声に一つ小さな支援の言葉がけでも、心が軽くなります。大変ですね…一緒に頑張りましょう…



お久しぶりです

仙台みどり会 佐藤みつえ

全てにありがとう

人生には良い事も悪い事も 沢山おこります。
全てに「ありがとう！」と感謝する人生にしたい
「幸せ・幸せ」といつも言っている人には
同じ幸せの波動を持つものが、引き寄せられてきます。
毎日、プラスの言葉を使っていきましょう！

例えば「嬉しい、楽しい、よかった、幸せ、ありがたい、
運がいい…」

というような言葉を、しょちゅう口に出すのです。
いつも口に出していると、意識が形にこの言葉が入ります。
プラスの言葉は、幸せに息づくための魔法の言葉なのです。

つらい事が起こると感謝するんです。
これまでまた強くなれると感謝するんです。
これで人の悲しみがよくわかると「ありがとう」
ピンチになると感謝するんです。
これでもっと逞しくなれると「ありがとう」



心が疲れた時は空を見上げてみよう

澄んだ空 まるであなたの優しい心のよう

心が苦しい時は海を見に行こう

青く広がる海はまるであなたの広い心のよう

汚れてしまったら また洗い流せばいい

破れてしまったのなら また縫い直せばいい

「悩み」はいずれ「思い出」に変わり

「涙」はいずれ「経験」に変わる

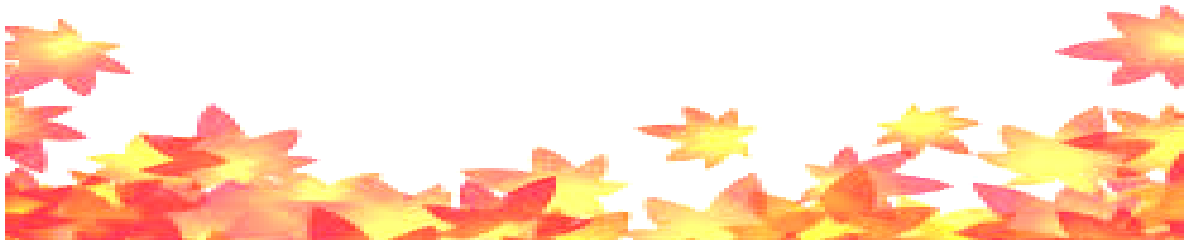
「キズ」はいずれ「キズキ」に変わる

「苦労」はいずれ「感謝」に変わる

「試練」はいずれ「宝物」に変わり

「哀」はいずれ「愛」に変わる

私自身、現在も心療内科に通院しています。
仕事、息子、孫… その他いろいろなことがあって悩み、それで無理に無理が重なって、身体、心が悲鳴を上げていました。
自分で“無理”をするなど言い聞かせていましたが、心身ともに崩れてしまいました。
少しずつは回復してきたもう少し休養したいと思います。
だから、みなさんも頑張りすぎないでください。
私たち親が、元気で長生きすることです。
それが精神障がい者にとって、一番の幸せと思います。





あるご家族からのSOS

仙台みどり会役員 後藤 くらゑ

コロナ騒ぎになる以前のこと。朝 8 時頃に私用で出かける準備をしていたところに電話が鳴り、「今、後藤さん宅にタクシーで向かっています」と殺気立った様子が聞き取れました。

この方は、みどり会会員として長い間お付き合いしている女性（以下、○さんと呼びます）です。当事者は統合失調症の息子さん 56 歳、高卒あたりからの発症です。近くにある早朝から開いているカフェで待ち合わせ、話を聞きました。

これまで○さんの息子さんは、高齢で介護サービスを受けている父親（○さんのご主人）との摩擦もあって、入退院を繰り返していることは聞いていましたが、今回は同じ理由で息子さんから入院を希望したとのことです。母親の○さんとしては、たまたま父親自身が不注意で足を骨折し入院しており、せめて父親の不在中だけでも自宅でのんびりさせてあげたいという親心から、自宅療養が可能ではないかという思いだったのでしょうか。息子さんと○さんは退院を願い、病院は許可して自宅療養となりました。

初めの 2, 3 日は良かったのですが、その後不眠が 1 週間続き、まとまりのない動きや大声を出して、夜間、○さんも眠れないほどになったようです。前日の大雨の夜には、車庫のコンクリートをスコップで割る音が近所に響き、止めようとしたが押し倒され、怪我をさせられるのではと交番へ通報したそうです。夜中のことでもあり、交番では落ち着くまで息子さんを保護してくれましたが、帰されたのが早朝 4 時とのこと。

相変わらず見守りが大変で、息子さんを置いて飛び出てきたのだと、○さんは神経をすり減らし、疲れ切った様子が感じ取れました。私から携帯で交番へ訳を話して、見回りを依

頼したところ、折り返し「直接、本人と面会してきたが大丈夫なようでした。」と返答があり、安堵しました。

こんなことがあった後、○さんは病院へ 2 度ほど息子さんの再入院をお願いしたが断られたとのこと。主治医が替わったことで、引き継いだカルテから本人は父親との不仲が原因で、精神的につらくなると自分から希望して入院することで逃げ場になっている。これまで何度も入院を受けているが、家族とのトラブルが原因であり、根本となる家族が見直さないことには治療の意味がないと強く断られてしまったとのこと。

黒川会長に相談したところ、「医療の問題なので難しいと思うが、できる範囲で○さんに寄り添ってあげてください」との話を受けて○さんに同行、身体が不自由になったご主人の退院を目前に、介護の必要性や息子さんの不安定な現状を伝え、何とか入院を願い入れました。しかし主治医からは「前に説明のとおり、家族の見直しがなければ、何度願われても無理である。」と言われ、その後、看護師長とも話をするように言われて説明しましたが、主治医と同じ考えで、「家族の関わり方が大切で、良くも悪くもなる。家族は薬と同じ治療薬である」と話があり、同席した私自身にも当てはまる言葉だと思いながら聞いていました。

主治医からは、希望する別の病院があれば紹介状を書きますと話があったので、書いてはいただいたものの先方からも断られました。



○さんのご主人の退院後、自宅には介護補装具設置のための工事が入って、工事音を避けるために私が息子さんをドライブに誘った

り、息子さんが通ったことがある相談支援事業所の交流の場へ行ったりしました。息子さんは「とても楽しかった」と話してくれました。私は「おばちゃんでも良かったら、次は厚化粧をしてくるから、またドライブしましょう」との冗談で笑いになりました。

しかしその後、息子さんは父親の一言にいらだって癩に障り、父親を壁に押し付けてけがを負わせたとのこと。老夫婦には防御するすべもなく、大けがになってはいけなくと再度交番へ通報し、パトカー2台と救急車が駆けつけたそうです。

幸いにも、大きなけがにはならなかったのですが、念のためとご主人は病院へ搬送され、頭から全身の検査の結果、肩に軽度の打ち身のみで済んだとのこと。

診断では軽傷だったにもかかわらず、息子さんは医療保護入院、保護観察を視野に裁判所の手続きへと拡大しました。○さんは、息子さんの入院先からの呼び出しを受け、ご主人は以前からの病気の後遺症で上手に話すことができず、一人では心許ないからと私に同行依頼があり、7人もの関係者の前でいっしょに聞き取りを受けました。

息子さんの今後は、○さんご夫婦の手の届きにくい方向へ向かっていきそうに感じました。

ある別な家族会の集いに参加した時のことです。私は○さんの息子さんのこれまでの経過について話をしました。

そうしたところ、ある方より「そこまで進展しているのであれば、我々家族が介入できる範囲ではなく専門分野にお任せすることになる」という黒川会長と同じような話があり、私としても同意しなければならないと感じました。

そんな中で、「あの方は、なるべくしてそうだった。仕方がないことだ。」と容赦のない発言があり、同じ悩みを抱えあう家族同志なのにと、もしわが息子に置き換えた時いたたまれなく、ショックを隠せませんでした。

○さんは、自分が息子をこのような境遇へ追いやってしまったと、悔やんでも悔やみきれない様子で、自分を責めてふさぎ込んでいる姿に私は慰める言葉もありませんでした。しかし、これ以上大変なことになってはいけなくと、息子さん本人を信じて見送ったのだと思います。

その後、息子さんの処遇は、医療保護入院から保護観察法に基づく入院へと切り替わり、退院後、地域での生活ができるまでに手厚い指導と支援を受けていくことになると思います。

息子さん本人は、きめ細かな職員の指導により、落ち着いて生活しているとのこと。

(○さんから了解をいただいて、書かせていただきました。)



家族研修会のご案内

宮家連主催—精神科医師による研修会

演 題 「家族のメンタルヘルスについて」

日 時： 令和2年11月11日(水) 午後1時30分～3時30分

場 所： 仙台福祉プラザ 10階 第2研修室

講 師： 東北福祉大学教授・せんだんホスピタル副院長

西尾 雅明 先生

参加費： 無料。直接会場へお出かけください。マスクの着用をお願いします。

仙台みどり会—精神保健福祉に関する家族研修会

テーマ「成年後見制度について」～制度の概要と事例のご紹介～

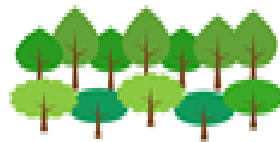
日時： 令和2年10月23日（金） 午後1時30分～3時30分

場所： 仙台福祉プラザ 10階 第2研修室

講師： 仙台市成年後見総合センター 相談員 小野寺 泰佐 氏

参加費： 無料。直接会場へお出かけください。マスクの着用をお願いします。

仙台みどり会懇談会のご案内



コロナ感染予防のため、当面下記により実施しています

- 「お昼の会」は、当面、見合わせます。
- でき得る感染症対策は施して実施します。
- マスクの着用をお願いします。発熱や風邪等、症状のある場合は参加をご遠慮ください。
- 中止となる場合は、事前に会員の皆さまへご連絡、ホームページに掲載します。

～ これからの『仙台みどり会懇談会』開催の予定 ～

精神障がいの当事者を抱える家族同士が気軽に参加して、
悩みを語り合い、体験を出し合って学習し、お互いに元気をもらっています。
コロナの再燃等で中止となる場合は、事前に会員の皆さまへ
ご連絡と、ホームページに情報を掲載します。 令和2年10月版

10月10日	土曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
11月22日	日曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
12月20日	日曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
1月23日	土曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
2月21日	日曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室
3月13日	土曜日	午前10:00～12:00	仙台福祉プラザ	10階 第2研修室

□会の運営は、皆さまからの会費（年間4,000円）で成り立っています。ご協力をお願いいたします。 ※会費には県の上部団体「宮家連」の会費1,500円が含まれています。



〒981-3204 仙台市泉区寺岡1-20-16 黒川方

精神保健福祉家族会 仙台みどり会事務局

電話・ファックス 022-377-1966 ホームページ <http://sen-midori.jimdofree.com/>

会員関係の皆さまの連絡先 080-2812-4835（受付時間 9時～17時）※ご相談の電話ではありません